



宿の窓から自然を眺め、ゆったりしたひとときを



theme 06

里山保全

里山と農業の魅力を 多くの人に伝えたいという 想いが咲かせた花



開花する3月が待ち遠しい



カタクリとニリンソウの会
代表

田端 龍一さん



埼玉県比企郡小川町出身。消防士として比企エリアを守ってきた兼業農家。平成15年から仲間の誘いで、働きながら里山保全活動を開始。消防士を引退した今は、地域住民と共に立ち上げた「カタクリとニリンソウの会」メンバーと共に、観光名所としてカタクリとニリンソウの里を守っている。また、農業や里山と観光客を結ぶことで小川町を盛り上げたいという想いで、ご自身のアイデアを生かした活動を行っている。

PROFILE



みんなが喜んでくれるから 毎年咲かせたい

小川町には、シーズンを迎えるとカタクリが咲き誇る群生地がいくつかあります。発芽から花を咲かせるまでに8～9年程の歳月がかかるカタクリ。地上に出ているカタクリの花茎の高さは、15cm程。背の高い植物が周りに生えてたり、落ち葉などで埋まっていると光合成が十分にできずキレイな花を咲かせることができません。人々が手入れを行っている里山はカタクリが花を咲かせるのに最適な環境と言われています。今回はカタクリの群生地の一つである「カタクリとニリンソウの里」を守る、田端龍一さんにお話を聞きました。もともと消防士との兼業農家だった田端さん。里山保全活動は平成15年から、「草刈りをするとうるさくなるぞ、お前もやれよ」と仲間と勧められて始めたそうです。当時は仕事をしながらの活動でかなり忙

しかったとか。「活動をはじめて3年程でカタクリの花が咲いて、みんなが綺麗だと喜んでくれたんだ。それなら毎年咲かせたいと思った。」と笑顔で語ります。

町の仲間たちと一緒に育み 小川町の「観光名所」へ

最初は一人で続けていた保全活動。「綺麗だから、カタクリを小川町の観光名所にしたい」とボランティアで手伝ってくれる地域住民や友人が集まるようになり、今では40名程の人が活動に参加しているそうです（通称、カタクリとニリンソウの会）。12月に草刈りを行い、2月に柵を打ち直すなどの整備を行い、3月下旬の開花を待ちます。「あんだだけ咲いているところはない。カタクリの花がだーっと紫色の帯状に咲くんだよ。来た人が『すごい！』ってたまげちゃうんだから。」と自慢げに語る田端さん。今では、「カタクリとニリンソウの里」として小川町の町民や観光客に愛され

る観光名所となりました。田端さんは「カタクリとニリンソウの里」の保全活動以外にも、小川町の美しい景観づくりに貢献しています。埼玉伝統工芸会館（道の駅おがわまち）の周辺を綺麗にしたいという想いから、数年前からポピーを育て始めました。「みんなすごい綺麗だっていうんだ」と、ポピーの他にも、季節に合わせて大豆やコスモスの栽培をしています。また、1月の小川町民新春マラソンのためにご自身で育てたお米に「マラソン米」のラベルを貼り賞品として提供するなど、常に小川町と観光客を結び、関わる人々がどうすれば喜んでくれるのかを考えています。田端さんの活動のエネルギーの源は、人々の笑顔にありそうですね。「小川町の魅力は里山。街に観光客が来て活性化してほしいと思っている。」と話す田端さん。開花は3月下旬ころ。みなさんも小川町の山々に広がるカタクリの花を見に来ませんか？

ライター／ひろちゃん

つながる
人の輪

田端さんの結びつき



※2022年11月取材時の情報です。飲食、ご購入の際は、お問い合わせください。

小川町の魅力は どんなところ？

THE CHARM OF OGAWA TOWN

町内外816人の方に
アンケートを実施！



令和4年7月23日・24日に開催された「第74回小川町七夕まつり」で、小川町SDGsまち×ひとプロジェクト
シティプロモーション実行委員会（以下シティプロモーション実行委員会）としてブースを出展し、「プロジェク
トの取り組み」を伝える展示と、ご来場の皆様に「小川町の魅力を知る」ためのアンケートを実施しました。

シティプロモーション実行委員会が目指すこと

——（ 小川町の魅力を伝え、興味や来訪のきっかけを作ること ）——

シティプロモーション実行委員会のメンバーは5名。そのうち4名が町外に住んでいます。小川町への関わり方はそれぞれでしたが、みんなが小川町の魅力に惹かれ、小川町SDGsまち×ひとプロジェクトへの活動に参画しました。シティプロモーション実行委員会の役割は「小川町の魅力を伝え、関わりを持つ人を増やす」こと。すなわち小川町の魅力を広く伝え、好きになってもらうことや、小川町に遊びに来てもらうことです。アンケート結果を基に取材へと展開し、より多くの方に魅力を伝えるための冊子を発行しました。この冊子を通して、一人でも多くの人に小川町の魅力を知っていただけたら嬉しいです。

EVENTS

小川町七夕まつり
とは？

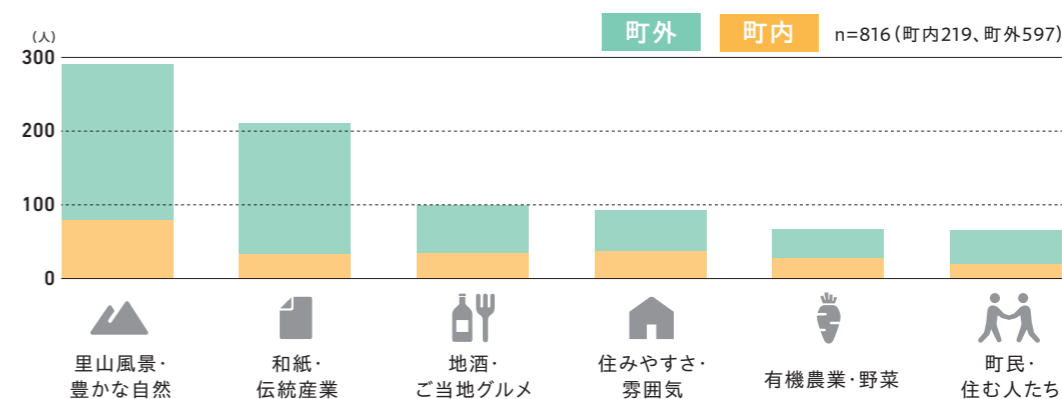
昭和24年（1949年）に第1回が開催されて以来、多くの人々の手によって脈々と受け継がれてきた歴史と伝統を誇る『小川町七夕まつり』。地元の方々や各種団体による和紙を使った色とりどりの『竹飾り』、歴史ある『屋台の引き回し』などさまざまなイベントが催されます。*

*出典： <https://www.town.ogawa.saitama.jp/category/4-1-2-0-0.html>



アンケート結果

アンケートの結果、里山風景・豊かな自然がダントツのトップでした。次いで伝統産業の和紙、酒蔵・ワイナリーを代表とする地酒・ご当地グルメが上位を占めました。



出典：自主調査（第74回七夕まつりでの聞き取り調査）

Welcome to OGAWA TOWN!

町外 からみる小川町の魅力とは？

- 1 里山風景・豊かな自然 35.5%
- 2 和紙・伝統産業 29.8%
- 3 地酒・ご当地グルメ 11.2%

四季の移り変わりが美しい小川町。景観を求めて訪れる方が多くいることが印象的でした。散歩やサイクリングの帰りに、地酒を買って帰るのが楽しみなんだとか。また、七夕まつりでの体験を通して「和紙」や「地酒」に魅力を感じたというご意見も多数ありました。

町内 の人が考える小川町の魅力とは？

- 1 里山風景・豊かな自然 34.8%
- 2 住みやすさ・雰囲気 15.6%
- 3 地酒・ご当地グルメ 15.2%

アンケートを取っている時に、たくさん子どもたちから「自然もいいし、和紙もいいし…選べないよ!」と心温まるご意見をいただきました。また、アンケート結果の2位に「住みやすさ・雰囲気」がくることから、住み心地のよい魅力あふれる素敵な町であることがわかります。

アンケートから見た小川町の魅力と人の繋がり

小川町七夕まつりでアンケートを取る中で、小川町のたくさんの魅力を知ることができました。それらの魅力は、すべての活動に関わる人々の「小川町への想い」や「様々なつながり」によって生み出され、小川町が魅力あふれる場所になっていると感じました。そんな魅力を多くの方にお知らせし、遊びに来ていただきたいという思いを込めて、「つながり」をコンセプトに、プロモーションブックを作成しました。テーマは、「伝統産業」「酒」「食」「有機農業」「暮らし」「里山保全」の6つ。テーマに関わる小川町の「人」のバックグラウンドを知り、町をめぐってみてください。



小川町SDGsまち×ひとプロジェクトとは？

「人口減少に負けない魅力あるまちづくり」を目標に掲げ、2020年から開始した「市民参加型のまちづくり」によるプロジェクト。小川町が持つ地域資源を最大限活かし、より一層まちの魅力を高めていくとともに、小川町らしいSDGsを推進するため、5つの実行委員会を組織し、各種取組を展開している。

魅力体験型ツアー実行委員会

フラッグシップイベント実行委員会

地域課題解決イベント実行委員会

地域資源×民泊施設コラボイベント実行委員会

シティプロモーション実行委員会

詳しくは
コチラ！

小川町SDGsまち×ひとプロジェクト
WEBページ（埼玉県小川町WEBサイト）



本冊子は、各実行委員会の活動を通し、小川町の魅力を発信するプロモーションブックです。

フラッグシップイベント実行委員会

小川町らしいSDGsの実現を目指して、小川町の魅力を掲げてイベントを開催する実行委員会です。



2022年度の活動内容

小川町の魅力は、多様な分野が関係し合いながら育んできた人や文化の繋がりと考え、楽しく繋がりを体感できるイベント「おがわのぐるり市」を企画しました。

地域課題解決イベント実行委員会

小川町にある様々な地域課題をどうしたら解決、小さくしていけるかをテーマに活動している実行委員会です。



2022年度の活動内容

小川町を拠点に活動するNPO法人を集めて、来場者に対して活動の紹介をしたり、法人同士が小川町の未来について語り合うイベント「紡ぐ市」を開催しました。

「おがわのぐるり市」を共同開催！

「遊ぶ市」「食べる市」「紡ぐ市」3つの市場を設け、町を深く知り、新たな関係性が生まれる交流の場づくりとして企画しました。当日は、多くの人が行き交い、遊び、交流して、小川町の色々な側面の魅力をゆったりと感じられる時間を過ごすことができました。



ACCESS

電車でお越しの方
池袋から約60分（東武東上線）

お車でお越しの方

□関越自動車道 練馬I.C.から嵐山小川I.C.まで50分
（市街地までは約10分）
□圏央道 青梅I.C.から嵐山小川I.C.まで40分
（市街地までは約10分）



魅力体験型ツアー実行委員会

移住のきっかけづくりに繋げることを目指し、町の雰囲気を実体験するとともに、観光資源や地域食材、四季が肌で感じられるツアーを開催する実行委員会です。

2022年度の活動内容

小川町の魅力を日帰りツアーにて体験していただきました。
今年は小川町の美味しいグルメを体験する「グルメさんぽ」ツアーと、小川町の有機農業の聖地・下里地区を満喫するツアーを実施。参加者の方からは、移住をしたいという感想等もいただき、大変好評でした！



地域資源×民泊施設コラボイベント実行委員会

定期的に足を運んでいただける関係人口の創出・拡大を目指して、町の豊富な地域資源を活用し、町内の民泊施設とコラボした宿泊イベントを企画・開催する実行委員会です。

2022年度の活動内容

小川町の民泊施設に一泊二日で宿泊しながら、小川町の魅力を体験することのできるイベントを開催。
オーガニックの花を使った花束作成や小川町の景色を題材にした写真教室を行いながら宿泊イベントを実施しました。





OGAWA
6S
COMMITMENT

小川町SDGs
まち×ひと
プロジェクト

小川町の魅力を6つの「S」で表現し、発信しています！

Slowを極める

都会から少し離れた自然豊かな環境で、ゆったりとした時間の流れを大切にします。

Storyを極める

目には見えない歴史や文化も含めた、それぞれが持つ『物語』を大切にします。

Socialを極める

日常から多様な人々が関わりあい、支えあい、課題解決していくまちづくりを目指す。

Sustainableを極める

自然に寄り添う暮らしをとおり、循環・共生型の社会を目指す。

Safetyを極める

困難な状況でも対応できるまち・ひとづくりを目指す。

Smallを極める

「量」より「質」を大事にしたまちづくりで、共創・共生型の社会を目指す。

埼玉県小川町の最新情報はコチラ！

小川町情報スモリバ
〈LINE〉

町内・町外問わずお楽しみいただける旬の小川町の魅力を毎週配信中！



小川町観光協会
〈WEBサイト〉

小川町の「食」「遊び」「自然」「農」「和紙」「イベント」の情報が満載！Facebook、Instagram、TwitterのSNSも要チェック。



小川町移住サポートセンター
〈WEBサイト〉

小川町に住んでみたい！でも…物件は？子育ては？仕事は？そんなお悩みを持つ方のミカタです！



INFORMATION

ローカルライフマガジン「TURNS」WEB版に座談会記事が掲載されています！

小川町SDGsまち×ひとプロジェクトの5つの実行委員会メンバーによる座談会の様子が、WEB記事として掲載されました。プロジェクトに参加した町内外のメンバーの声を通して、小川町の魅力が感じられる記事となっております。ぜひご一読ください。

記事はコチラ



TURNS

発行

2023年2月7日 初版

企画・制作

小川町SDGsまち×ひとプロジェクト シティプロモーション実行委員会

協力

写真：平岩 寿之（小川町地域おこし協力隊）／ つながる人の輪イラスト：木谷 海斗（小川町地域おこし協力隊）

デザイン・印刷・製本

望月印刷株式会社

お問い合わせ先

小川町SDGsまち×ひとプロジェクト OGAWA 6Sプラットフォーム事務局：一般社団法人 the Organic
小川町役場 にぎわい創出課 TEL：0493-72-1221（内線234.235）

